65`s修学旅行通信

№2　平成２４年２月２０日

修学旅行が無事終了しました。ほぼ全員元気です。

３泊４日の日程を終えて 65 回生が帰着しました。２月７日（火）～２月 10 日（金）の期間、北海道ルスツ・小樽・札幌方面への修学旅行は、スキー・スノーボード研修やボランティア参加、そして班別研修など盛り沢山な日程を精力的にこなし、しかも、それぞれにおいて高い評価を得て成功裏に終わりました。

初日は、空路による北海道への移動後、バスでルスツに向かい、開校式後、直ちにスキー・スノーボード実習に入りました。班別にインストラクターからの指導で「パウダースノー」を体感した後、小樽でのオブジェ制作の予行演習もしっかりとこなしました。

２日目は午前・午後共に引き続いて班別の実習に全力投球し、その疲れをものともせず、再びオブジェ練習に励みました。プールやアリーナで自主トレーニングに励んだ生徒もいたようです。ナイター実習も実施され、３分の２以上の生徒が参加して楽しみました。

３日目は午前中の実習後、閉校式を経て小樽へとバスで移動し、午後３時過ぎから各クラス毎のオブジェ制作に取り組みました。制作許容時間正味2時間あまりというハードな状況の下、クラスが一丸となって制作に没頭した結果、日没をむかえた５時には全てのオブジェにろうそくの明かりが点りました。その後は会場案内や道案内、カメラのシャッター押しなど、「小樽雪あかりの路」を訪れた観光客へのボランティア活動にいそしみました。ホテルに投宿したのは午後８時を回り、遅い夕食となりましたが、クラス対抗のオブジェ作品への投票結果が公表され、引き続き、表彰式や講評が行われ、さらにエール交換や校歌合唱によって盛り上がりは最高潮に達しました。

最終日は誰もが待ち望んだ「小樽・札幌班別研修」です。ほぼ４人～６人毎に班を構成し、小樽を中心とする班と札幌を中心とする班に分かれ、班別にバスで移動しつつ、班それぞれが目的とした名所（札幌雪まつり・北海道大学・白い恋人パークなど）や事物（ガラス工芸・海産物など）について研修を行いました。札幌テレビ塔前には、定刻に遅れることなく全ての班が集合し、一路新千歳空港へ。雪が降り、しかも金曜日、さらに雪まつり開催中ということで搭乗手続きが混み合い、結局 10 分遅れで出発しましたが、機内は終始和やかで快適な空の旅となりました。伊丹到着後、解団式を終え、自宅方面別のバスに分乗して、帰途につきました。

修学旅行を終えて（生徒感想文から抜粋）

◇この修学旅行のテーマは「拓く」ですが、私にとって自分の人生を拓く、ということのきっかけが得られました。１つは、人の温かさ。雪あかりの路での呼び込み活動で来ていただいた方が「立体的なのがよかった。２時間でここまで作れるのはすごいね」と言ってくださったのは、本当に励みになりました。２つは、計画することの大切さ。5 分単位で計画されていますが、この計画性があったからこそ、行事がスムーズに運び、こんなに楽しく、まだ北海道に居たいと思えるほど北海道が好きになれました。3 つ目は感謝の気持ちの自然な芽ばえ。この修学旅行の成功に向けて多くの方々のご指導や配慮・協力などを知り、嬉しくて泣けてくることもありました。「人生を拓く」とは、まだはっきりとは分かっていませんが、進むべき道は見えてきました。

◇今この感想を帰りの飛行機の中で書いている。あっという間の 4 日間もそろそろ終わりだ。雪あかりの路、旅行委員やオブジェ代表の子を中心に案を練っていたが、私は「こんな案通りにうまくいくはずがない」と消極的な考えばかりしていた。でも私たち以上に不安であったろう A 君、M さん、S さんたちが、夜一生懸命案を練り直してくれたり悩んでいる姿を見て、私もただ指示を仰いでいるだけじゃいけないという気持ちになった・・・。そして当日。皆役割ごとに精一杯働いた。あっという間に時間が過ぎてろうそくが点灯したとき、予想以上の完成度に自分でも驚いた。何もないところからの出発でも、仲間の力が結集するとこんなにすばらしいものができるんだという達成感を得られた。

◇雪あかりの路では、厳しい予定をこなし頑張ったことが“ 力 ”となった。人々の温かさが“ 力 ”となった。灯のきれいな明るさが“ 力 ”となり、これからの高校・大学・社会での生活のためになったと思います。とっておきの修学旅行になっただけではなく、一生ものの価値ある経験をさせていただき本当に幸せだと思いました。陰で支えてくださった多くの方々への感謝を忘れず、この大切な経験を“ 自分の力 ”に変えていきたいです。

◇私たちは「小野のひまわり」をイメージしてオブジェを制作した。観光客の方々にこの説明をしていると、ある年配の女性が「洋画を思い出しました」と言われ、その映画の内容や感想をうかがった。また、オブジェ中央の雪玉のかまくらを見て、「子供が親や兄弟を想って積んだ石のようでせつない気持ちになる」と涙ぐんでおられた。「同じひまわりでも人によっていろいろな見方があるね。いいこと教えてもらった気がする。本当にありがとう。心が温かくなったわ」と言って握手を求めて帰って行かれました。

◇雪あかりの路のオブジェには、個人的には大満足し、達成感がありました。リーダーを決めるときちょっとためらいがあったけど、オブジェリーダーをして本当によかったです。制作の最後になって、間に合わなくて集合がかかったとき「もういいやん・・・」と言った私に、K くんが「まだ納得してないんやろ？」と手を止めなかった姿を見てとても嬉しかった。そしてハートが掘れた瞬間「できたぁ！」と叫んで泣いてしまった私を見て、K 君、S 君、A さんがすごい笑顔で笑い返してくれた。「（私には）居場所がある。この仲間といるこのクラスが大好き」と一瞬で思いました。

◇今回のテーマ「拓く」には 3 つの意味がある。私は、そのうちの 2 つを実行でき、残りの１つを今後実行していくための糧を得ることができた。１つ目の“ 目をひらく ”は、ルスツでの自然のすばらしさに感動し、小樽では様々な人たちとの関わり方を学ぶことができた。2つ目の“ 心をひらく ”は、雪あかりの路オブジェ制作だ。一致団結と連帯感の大切さすばらしさを経験した。３つ目の“ 自分の道をひらく ”。修学旅行から帰ってきた今は、まだ道はひらけていない。ただ、65 回生という集団で行動し、“ 渾身の大人扱い ”によって、力を得ることはできた。これから道を切り拓いていくためには、目標までの距離や自分の位置をしっかり見抜かなければならない。私は、この修学旅行でその足がかりを作ることができたように思う。